記　事

例会記録

日本医史学会・第34回神奈川地方会秋季会
9月合同例会　平成21年9月12日（土）
鶴見大学歯学部3号館2階3–1講堂

一般講演
1. 仏教思想と穢れとの関係
　―相反する両者の融合―　杉田暉道
2. 救らいの父・光田健輔　佐分利保雄
3. 森鷗外と原田直次郎　荒井保男
4. 漢代の医学　家本誠一

特別講演
血圧測定とその考察の歴史　栃久保修

日本医史学会10月例会　平成21年10月24日（土）
順天堂大学医学部10号館2階カンファレンスルーム
1.『医林改錯』の気血観　越智秀一
2. パラケルススの薬物療法における
　アロパティーとホメオパティー　小原正明

日本医史学会11月例会　平成21年11月28日（土）
順天堂大学医学部9号館2階8番教室
1. 彦根市のマラリア対策
　―自主製作映画「翼もつ熱病」に関する考察　田中誠二
2. 母乳をめぐる自然概念の歴史的変遷　梶谷真司

例会抄録

在ドイツ森林太郎あて書簡にみる帝国大学医科大学事情

岡田　靖雄

在ドイツ森林太郎あて書簡は，その前半が鷗外記念本郷図書館に蔵され，後半が日本近代文学館におさめられている．日本近代文学館が1983年に刊行した『日本からの手紙　日本近代文学館所蔵滞独時代森鷗外宛　1886–1888』は，6月分もすこしまじる1886年7月から1888年4月，つまり，森林太郎のミュンヘン，ベルリン時代のものである．全121通で，差し出し人は森静男（父）44通，森篤次郎（弟）45通，森キミ（妹）15通，森潤三郎（弟）3通，家族外では石黒忠悳1通，石坂惟寛2通，緒方惟準1通，緒方収二郎1通，賀古鶴所1通，呉秀三2通，小池正直4通，小金井良精1通，永松東海2通である．森篤次郎（当時医科大学生，のち三木竹二名で歌舞伎評をものした）のものはいつも長文で，ひじょうにこまかい迫真の描写にみちている．谷口謙はひどい陰謀家として詳細にえがかれている（それは，森側に被害的疑念がつよすぎるという印象をあたえる）．

これら，とくに森篤次郎書簡から，帝国大学医科大学に関する記述をひろった．まずおおきいのは，医学教育制度の改革である．1886年12月10日づけで，わが級は旧4年本科生だが，大学4年となって第1学年となり，旧5等本科生は第1高等中学本科第1級となった，落第の10名は高等中学にとどめられた，とある．この年3月2日の帝国大学令で，東京大学医科大学は帝国大学医科

大学となり，ひきつづき，医学部修業年限が5年から医科大学4年とあらためられたのである（学年の数え方も，最上学級が第1年から第4年と，逆になった）.

医科大学生からの書簡は森篤次郎のもののほかには，その同級生呉秀三のものだけである．篤次郎書簡にも，呉からの医書購入依頼が何回かのっていて，統計学のカタログをほしがっているともある．そして，1887年1月7日には，呉がエステルレンの医学統計学教科書の購入を依頼し，そのあとにも統計学の目録を希望している．当時呉の兄文聰は，それまでイギリス語の統計書をよんでいたのを，ドイツ語のものにも目をむけだしていた．“統計論争”の焦点となった本は，呉秀三からの依頼で森林太郎がかいおくったものと推定される．林太郎はまたレシング集，ゲーテ集を呉におくってもいる．

林太郎の兵食論，ナウマン批判が医学生に大歓迎された様子も，篤次郎はいきいきと報じている．落第した級友のことや，林太郎を賞讃しているだれかれのこともでている．試験で頑ばり，40数名中の13番となって呉とならんだこともでている．教師の気にいられているものに好点があたえられる，ともある．

教授たちのことは，石黒書簡（榊俶の帰朝をまっている），森静男書簡（榊着京し，林太郎の大写真をうけとり，額装して座敷にかざった，三浦守治がきて民顕府で貴様といろいろ談話したことをはなしてくれた，うけとった3箇の荷物のなかに浜田玄達の本の荷物もあってあずかってる）にものっているが，篤次郎は何人かの教授の講義ぶり，また家庭事情をかなりくわしくかいている．1887年3月3日の運動会には皇太子明宮が臨席したが，その“額出ルハ脳水腫タルヲ知ル可シ”，言語動止は活発だが，“卿モ隻足競走ヲ為セヨ”といわれたのには総長も閉口したようだ.

篤次郎は教授陣については，ドイツ人教師を減じて洋行帰り学士を教授にするのは初年の素志にもとづくものだが，洋行すればかならず教授になるというのでは，功績勉励品行をとわぬことで感心しない，と総論をのべている．当時（篤次郎は医科大学1年生→2年生）新教授としては，小金井良精（解剖学），三浦守治（病理学），高橋順太郎（薬物学），佐々木政吉（診断学），青山胤通（内科学），榊俶（精神病学）がいた.

小金井良精は一貫して篤次郎の賞讃の的である．真の教授の名にはじざるは氏のみ，寛容平和で懇切，講義ははやからずおそからず渋滞なし，学力まさりて人物上等．またのちには，衆評によれば，“言ノ確実行ノ謹厳ニシテ泰西ノ学者ニ愧ヂザルハ小金井氏ニシテ弁舌初音ノ鶯ノ如ク条理井然トシテ迷ハザルノ講演ハ佐々木氏ヲ押シテ共ニ双璧ト為ス可シト”とかく．緒方正規（衛生学，—当時衛生学は医科4年で）にはまだまなばぬが，講義は下手，原書の直訳．大沢謙二（生理学）の講義はおもしろく，手足をうごかして饒舌，本人は円朝を気どるがむしろ小三（篤次郎は学生時代から歌舞伎はじめ大衆芸能への造詣がふかかった），理解させようというよりは己の演舌をしめす，そして筆記しようとするとかけない．分析学の丹羽藤吉郎（薬物学助教授）は，即座に暗記させて筆記はさせないが，これはよい．佐々木の診断学はたくみで，大沢につぐ弁舌.

高橋の講義は拙劣で，訥訥きくにたえず，休止がながすぎて閉口．のちにはまた“高橋順チャンハ”とかきだして，接続詞・語尾がなく，声は宋十郎かとおもうばかりで，声門の作用をかりずに肺から音声をだすかとうたがうばかり，高低・抑揚がなく終始同調子．疳持ちで，試問にこたえられない学生をどなりつける．三浦の弁ははやからずおそらかず，しかし，やたらに謙譲の句をもちい，“大方コンナ事デショウカ”，“ドッチノ説デモ好キナノヲ御取リナサイ”など，教授があいまいなのはこまる.

榊は上手，青山はあいかわらず吃と同宿3年生の話し．講演会での三宅秀の医の務，榊の狂人取り扱い法，佐々木の病因論などの説は，じつにくだらぬもので“家兄ノ寝言ニ異ナラズ”.

そのうち賀古を通じて小金井がキミとの結婚をもうしいれている．それについては静男，篤次郎ともにかいているが，篤次郎はとくに，小金井の病気のこと（膀胱萎縮だが，なおっている），人

柄，生活などをこまごまとかきおくっている．キミは小金井か緒方にとおもっていた，と篤次郎はかく．

緒方の翻訳はその妻が筆記していた．この人は榊の妹で，男子（のちの千葉医科大学教授規方規雄）をうむと，結核で死亡した．妻の妹は師範女子学校卒の教師で，なまいきで書生と議論するという（のち耳鼻咽喉科教授の岡田和一郎と結婚した徳子，世話好きな活動家だった）．緒方は高等中学教師高田勇吉の妹をむかえたが，この女に情夫ありとのちにしり，おいだそうとしたができず，大悶着ありと．榊は妻をきらっていたが，妻は両親に気にいられていて離婚できず，新橋であそんでいたが，ついに離婚して裁判沙汰になっている．青山のところでは，少美の下女が妻の悪口をいってまわっていたが，ついに離婚となった．妻は疳癖つよく，青山をみつけ次第ころして怨みをはらしてやるといっている．佐々木はよい家の婿だが，父は外出をこのまぬので外出できず．よそできいたところでは，吉原であそび二絃妓を妾にしているとのこと．さて，こういった教授家庭の混乱ぶりの大部分は，来訪した小松夫妻から篤次郎がきいたとあるが，この小松夫妻がどういう立ち場の人だったかは，わからない．

正史にかたられぬ人物像，裏事情を，とくに篤次郎書簡はかたっているのである．

（平成21年1月例会）

仏教思想と穢れとの関係

杉田　暉道

古代インドの「マヌ法典」に記されている穢れの思想をみると，出産，性交，排泄，月経，死などの生命の再生産のために，欠くことの出来ない重要な生の営みを，穢れのみなもとと考えた．

そして身体の部位については，へそから下の部位が，へそから上の部位にくらべてより穢れていると考えた．

わが国においては，穢れの思想が古くから存在したことは「古事記」などから明きらかである．さらに殺生禁断の詔勅が天武4年（676年）に出された．平安朝の後半期になると，戦争や疫病がはげしくなり，人心の不安が一層広まったので，仏教は現世は穢土であると説き，往生して浄土へ行くためには，念仏を行わねばならないと強調した．

さらに「地獄草紙」という絵巻物が出版されたために，地獄の様子が更に理解され易くなり，死後の恐怖感を中心にした仏教思想が一挙に民衆の間に広まった．また朝廷は「天下触穢」の布告を出し，穢れを消去する為に，占い師を使って種々のタブーを出した．かくして，凡そ穢れたことに遭遇したときは，人の死亡では30日間，出産は7日間，家畜死は5日間，家畜のお産は3日間とした．

つぎにわれわれの日常生活における穢れの実態について検討した．これについては，衛生習慣と関係あるものを，1）空間との関係，2）身体との関係に分けて検討した．

1）の空間との関係については，日本人は外から帰宅すると，玄関で靴または下駄をぬいで部屋に入る．さらに，神社，寺などでは「土足厳禁」の札をよく見かける．また葬式に参列した時には，塩を身体にかけて清める．2）の身体との関係については，食事の前には手を洗い，箸を用いて食事をする．

2）の身体との関係についてみると，日本人は食事の前には，手を洗い，食事をする時には箸を用いる．また，バス，タクシーの運転手などは，白い手袋をはめている．白い手袋は清潔を示しているのである．また身体についてみると，下半身は